

宿泊予約サイトデータを用いたトポスの地域価値の分析 An Analysis of Topos Value in the Zone Design Using Booking Site Data

鈴木 祥平[†] 森本 祥一[†]
Shohei Suzuki Yohei Kurata

1. はじめに

少子高齢化や人口の減少が深刻化する日本の地方部においては、より戦略的に地域の価値を高めることが求められている。そうした中で近年注目されているのが「地域デザイン学」である。地域デザイン学においては、地域価値の発現に向けた理論フレームとして「ZTCA デザインモデル」が提唱されている。ZTCA とはそれぞれ Z:ゾーン, T:トポス, C:コンステレーション, A:アクターズネットワークの頭文字であり、これら 4 つの要素を掛け合わせることで地域価値が発現するとされている[1]。そして、これらの中でもキーファクターになるとされているのが T のトポスである[2]。

トポスとは「単なる場所ではなく、特別な意味のある場所として何らかの地域価値が発現する固有の場所のことであり」とされている[2]。また、先行研究においてはその特徴や背景によって、表 1 のようにトポスを分類している[2]。先行研究では、表 1 に示された例が先進事例として取り上げられ、それぞれの地域価値発現のプロセスが丁寧に記述されている。一方で、それぞれのトポスが地域来訪の誘因となっていることが定量的に示された例は少ない。

以上の背景から、本研究では、宿泊予約サイトのデータを用いて、宿泊施設(誘客者)の視点および宿泊者(来訪者)の視点から、先行研究で示されたトポスが地域来訪する誘因と成り得ているかを定量化し、それぞれのトポスが地域へもたらす影響について考察する。

表 1 トポスの分類

光のトポス		影のトポス	
分類	例	分類	例
カジノ	マリーナベイ・セントーサ	原発	チェルノブイリ
テーマパーク	ハウステンボス	公害	水俣
超高層マンション	武蔵小杉	収容所	アウシュヴィッツ
リゾート	星野リゾート	被爆地	広島
サービスエリア	海老名 SA	廃校	大地の芸術祭
道の駅	水辺の郷 おおやま	空家	シェアビレッジ
日本遺産	四国遍路	工場跡	日産村山工場跡
国立公園	阿寒摩周国立公園	大型店跡	ダイエー長野店跡

[†] 専修大学経営学部 School of Business Administration, Senshu University

2. 研究手法

前述の通り本研究では宿泊予約サイトのデータを使用する。宿泊予約サイトにおいては、宿泊施設は各施設の特徴(例えば露天風呂など)を売り出し、宿泊者は各施設についての感想(例えば食事が美味しいなど)を投稿する。こうした中で、強い誘因となるトポスが周辺に存在する場合、宿泊施設は「〇〇まで徒歩 5 分」のように施設を売り出し、宿泊者も「〇〇を訪れるために宿泊しました」といったようにレビューを投稿する。つまり、宿泊予約サイト上でのトポスの名前もしくは関連語の出現傾向を分析することで、トポスが地域を来訪する誘因と成り得ているかを定量化することが可能であると考えられる。

本研究では、日本の宿泊予約サイトの中で最も登録施設数が多いとされている楽天トラベルを対象に、登録されている施設の紹介文(以下、紹介文とする)および各施設に寄せられた宿泊者レビュー(以下、レビューとする)を収集する。なお、データの収集には楽天が公開している楽天トラベル施設検索 API[3]を使用し、紹介文およびレビューは 2019 年 6 月 1 日に取得した。これらのデータを用いて以下の手順で分析を行う。

まず、先行研究で挙げられたトポスの所在するエリア(宿泊予約サイトで設定)ごとに紹介文およびレビュー内にトポスに関するキーワードがどの程度出現しているかを算出する。なお今回の分析対象のトポスとそのエリア、使用するキーワードは表 2 の通りである。

次に、宿泊予約サイトの設定に基づき、紹介文を施設形態(ホテル、旅館、ペンション)ごと、レビューを宿泊目的(レジャー、ビジネス、その他)ごとに分類し、それぞれの中でのキーワードの出現率を算出する。

最後に、個々の事例ごとに、トポスの特徴や価値発現のためのコンテキスト転換が行われた時期を踏まえた時系列分析や、エリアを絞り込み、より狭い範囲の地域を対象とした分析を行う。

以上の 3 つの段階で分析を行い、それらの結果を踏まえてトポスの分類による違いや、地域へもたらす影響について考察する。しかし、紙面の都合上、本稿ではすべての結果について述べることはできないため、主に 1 つ目の分析の結果について述べる。

3. 各トポスのキーワード出現率

前述の方法により、各トポスが所在するエリアの紹介文およびレビュー内に、トポスに関連するキーワードがどの程度含まれているかをキーワード出現率として算出した。その結果を表 3 に示す。

紹介文とレビューのどちらも、テーマパークトポスのハウステンボスが最もキーワード出現率が高いという結果となった。テーマパークトポスは他のトポスに比べて収容可能人数が多く、滞在時間が長いという特徴があり、それに

表2 分析対象トポスのエリアと関連キーワード

分類	トポス	エリア	キーワード
テーマパーク	ハウステンボス	ハウステンボス・佐世保・平戸	・ハウステンボス
超高層マンション	武蔵小杉	川崎	・高層マンション ・タワーマンション ・タワマン
サービスエリア	海老名SA	厚木・海老名・伊勢原	・サービスエリア ・SA
道の駅	水辺の郷おおやま	九重・日田・天瀬	・水辺の郷 ・おおやま ・道の駅
日本遺産	四国遍路	エリア指定なし(四国全域)	・遍路 ・八十八
国立公園	阿寒摩周国立公園	釧路・阿寒・川湯・根室	・湖 ・国立公園
公害	水俣	宇土・八代・水俣	・水俣病 ・公害
収容所	網走監獄	網走・紋別・北見・知床	・監獄 ・刑務所
被爆地	広島	広島	・原爆 ・戦争
廃校	大地の芸術祭	魚沼・十日町・津南・六日町・大湯	・芸術祭 ・アート

表3 各トポスのキーワード出現率

	宿泊施設紹介文		宿泊者レビュー	
	紹介文数	出現率	レビュー件数	出現率
ハウステンボス	83	14.5%	16,036	21.3%
武蔵小杉	57	0.0%	29,588	0.05%
海老名SA	55	0.0%	8,332	0.0%
水辺の郷おおやま	120	0.0%	5,544	0.2%
四国遍路	992	5.2%	180,000	0.9%
阿寒摩周国立公園	140	10.7%	19,774	6.0%
水俣	52	0.0%	4,075	0.0%
網走監獄	124	1.6%	17,869	0.3%
広島	157	3.8%	70,681	1.0%
大地の芸術祭	211	0.0%	8,335	1.0%

伴ってテーマパーク来場者をメインターゲットとした宿泊施設がエリア内に立地しているため、このような結果となったと考えられる。

2番目にキーワード出現率が高いトポスも紹介文とレビューで共通して、国立公園トポスの阿寒摩周国立公園であった。ただし、レビューのキーワード出現率はハウステンボスが21.3%であるのに対し、阿寒摩周国立公園は6.0%と大きな開きがある。これらの値については、「何%以上であれば良い」などの明確な基準は存在しないが、その強弱に関わらず、「誘因と成り得るか」について議論するのであれば、0%以外のトポスについては誘因と成り得ていると言えるだろう。したがって、上記のトポスについては、誘客者と来訪者どちらの視点からも誘因の1つであるとされていることがうかがえる。

3番目以降については、紹介文は日本遺産トポスである四国遍路の5.2%、被爆地トポスである広島の3.8%と続くのに対し、レビューは廃校トポスである大地の芸術祭と広島1.0%と続いている。これらの結果については、四国には四国遍路以外の、広島には被爆地であるということ以外の誘因と成り得る資源や要素が多いことでキーワード出現率が低くなっていると推察される。また、大地の芸術祭については3年に1回のみ開催であることが影響していると考えられる。なお、公害トポスである水俣に関してはどちらも0%であり、今回使用したデータからは公害が誘因となっていることは読み取ることができなかった。

4. おわりに

本研究では、日本の各地域が抱える問題の打開策の1つである地域デザイン学において、地域価値発現のキーフアクターとされるトポスに着目した。トポスがどのような価値を生み出すかは様々であるが、本研究では「トポスが地

域来訪の誘因と成り得ているか」を定量的に評価することを目的とした。

来訪者の視点および誘客者の視点から、トポスが地域来訪の誘因と成り得ているかを定量化するため、宿泊予約サイト上の紹介文とレビュー内にどの程度トポスに関連するキーワードが含まれているかを算出した。その結果、公害トポスである水俣以外の対象にはトポスに関するキーワードが含まれており、それぞれのトポスが誘因と成り得ていることが示唆された。

しかし3章で述べたように、今回の分析ではエリア内の他の誘因の影響や時期の影響などが考慮されておらず、本稿で示した数値だけでは、それぞれのトポスの誘因としての強弱を正当に評価することは難しい。また、対象とする事例が少なく、評価の際の基準値も不明瞭である。今後は各トポスやエリア特徴を考慮した追加の分析手を行うとともに、より多くの事例を分析することで、それぞれのトポスに応じて誘因としての強弱を評価可能な指針を示すことが求められる。

謝辞

本研究の遂行にあたり、令和元年度専修大学情報科学研究共同研究助成(宿泊関連ビッグデータの地域デザイン学への応用に関する研究)による支援を受けた。

参考文献

- [1] 原田 保, “地域デザイン研究の定義とその理論フレームの骨子”, 地域デザイン学, Vol. 7, pp. 9-29, (2016)
- [2] 原田 保, 山田 啓一, 石川 和男 (編著), “地域イノベーションのためのトポスデザイン”, 学文社, (2018).
- [3] 楽天, “楽天トラベル施設検索 API”, <https://webservice.rakuten.co.jp/api/simplehotelsearch/>